

志木二中だより



令和元年度 11月号
志木市立志木第二中学校

令和元年11月1日(金)
志木市館1-3-1 TEL 048-473-2379

台風と旋風

校長 本 莊 真

10月に起きた印象に強く残った事柄を、2点書かせていただきます。

1点目は、猛威を振るった台風19号についてです。今までにない猛烈な風雨になると予想されてはいましたが、過ぎ去った後、広い範囲で我々の予想を超える大きな被害が出てしまいました。県内でも浸水や停電が起こり、長期間にわたり避難を余儀なくされたり、いまだに復旧のめどが立たない家屋もあるようです。被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早く元の生活に戻れますようお祈りいたします。河川の多い本市においても浸水等の被害があり、夜通しの暴風雨に不安で眠れぬ夜を過ごした方も多かったのではと思います。学校も市内の全小中学校が避難所となり対応をしました。9月末に市民総合防災訓練が行われましたので、その経験が活かされたことがあったのでしょうか。また、予想を超える災害となったため、新たな課題も明らかになり対応せねばならないこともあるのではと思います。いろいろと振り返り、これから活かしていかなければと思うところです。

2点目は、大変な盛り上がりを見せたラグビーワールドカップについてです。皆さんご存知のとおり、日本代表チームが予選リーグでロシア、アイルランド、サモア、スコットランドに勝利し、グループ1位で決勝トーナメントに進出しました。日本がベストエイトに勝ち上がったのは初めてで、こちらも予想を超える活躍で日本国中が熱狂しました。何が人々の心に火をつけたのでしょうか。激しくぶつかり合う中でのフェアプレーや1つのボールを全員で運び進めていく献身的なスタイルなどが人々を感動させたようです。今までラグビーを見たことのない人にも競技の素晴らしさが認められました。志木二中だより2月号でもラグビーの「ノーサイドの精神」について書きました。試合終了後に敵味方なくハグや握手をして健闘を称えあう姿も美しかったですね。そして、カナダやナミビアの選手が台風で試合が中止になっても被災地に残りボランティアとして作業を手伝ってくれたりファンと交流したり、試合後にお辞儀をして応援席にお礼をしたりするなど、マナーの良い海外の選手の行いも話題となりました。

「桜ジャージ旋風」などという新聞の見出しもありましたが、このラグビー人気を台風のような一過性のものとせず、文化として日本に根差すにはこれからラグビー関係者の様々な努力が必要なのかもしれません。私は、今回のラグビーワールドカップでたくさんのかんじ考えることができました。生徒にも「いろいろと考える機会としてほしい」と10月の全校朝会で話した次第です。



埼玉県では、11月1日から7日までを「彩の国教育週間」としています。本校では2日(土)を学校公開日として授業を公開いたします。2, 3校時(10時から11時30分)には「ふれあい講演会」も実施いたします。保護者、地域の皆様のご来校をお待ちしております。